

平成28年度 岐阜県高病原性鳥インフルエンザ防疫演習

平成28年度岐阜県高病原性鳥インフルエンザ防疫演習（主催：岐阜県、共催：一般社団法人岐阜県畜産協会、飛騨地域高病原性鳥インフルエンザ現地対策本部及び飛騨畜産振興会）を、平成28年9月30日（金）、高山市の飛騨・世界生活文化センターで開催しました。地元市町村や関係団体に加えて県内、近隣県から総勢152名の参加がありました。

午前は、岡山県の家畜保健衛生所職員をお招きして平成27年1月の岡山県における高病原性鳥インフルエンザ発生事例への対応とその後の取組みについて御講演をいただきました。

午後は、関係職員により集合場所での作業（受付、作業従事者の健康調査、防護服の着脱等）から農場での作業終了までの一連の流れについて実動演習を行いました。

国内において、平成27年1月以降本病の発生はみられておりませんが、近隣諸国においてはその後も散発的な発生がみられており、今年の冬についても国内での発生は予断を許さない状況です。今後の発生がないことを願いながらも、いざという時に備え緊張感を高め、認識を新たにする演習となりました。

講演

「平成27年に発生した高病原性鳥インフルエンザへの対応とその後の取組みについて」と題して、平成27年1月の発生事例への岡山県における防疫対応について、岡山県の家畜保健衛生所職員より詳細かつ分かりやすい御講演をいただき、防疫対応の重要性を再認識するとともに、現状と課題について知ることができました。

実動演習

防疫作業従事者が集合施設から農場隣接の仮設テントに移動し、農場等で実施する作業について、関係機関による演習を行いました。集合場所では、保健所の職員により体調に問題ないか健康調査を行います。その後、農場へ持ち込めない手荷物を係員に預け、防護服2枚を配布されます。1枚は内側の防護服として装着し、外側の防護服には氏名、担当班名を胸面と背面に明記して装着します。

次に、農場の仮設テントへ移動し、防疫作業用のマスク、ゴーグル、手袋及び長靴等を装着、農場等での防疫作業の演習を行いました。





模擬鶏をケージに入れ、これを発生農場の鶏舎と見立てて、一連の作業について訓練を行いました。

ケージ内の鶏を捕鳥し、容器に入れ、炭酸ガス注入により安楽殺を行います。

殺処分完了後、家きん卵、飼料、鶏糞等の汚染物品の処理を行います。

殺処分した鶏や汚染物品は袋に入れた後、フレコンバックにより埋却場所へ運搬します。一つ一つの作業は、ウイルスの拡散を防止しつつ、作業は安全に進めることを忘れてはなりません。



汚染物品処理後、鶏舎内の清掃・消毒作業を行います。

今回の演習では、会場客席を利用して、約18,000羽の埋却を想定した模擬埋却溝（底面4m×8m、高さ4m）を作り、溝の深さなどを擬似体験しました。



農場での作業を終えた従事者は、ウイルスを農場外へ持ち出すことを防止するため、全身を十分に消毒してから、防護服を脱ぐこととなります。

防疫作業終了後、移動用の防護服に着替え、手洗い、うがいを行い、集合施設まで帰ります。



今後の対応

高病原性鳥インフルエンザは、アジア等近隣諸国において継続的に発生がみられているところであり、今年の冬においても予断を許さない状況です。今回の演習において得られたことを踏まえ、万が一発生してしまった際には、関係者が一丸となり、万全の態勢で本病の防疫対応に臨みます。